

自己の生き方についての考えを深める道徳の授業

— 自分を振り返らせる 2 軸 4 象限の座標軸の活用を通して —

坂町立坂小学校 津島 敦子

研究の要約

本研究は、自分を振り返らせる 2 軸 4 象限の座標軸の活用が、自己の生き方についての考えを深めさせることを明らかにすることを目的とするものである。具体的には、まず、児童に自分自身の問題として受け止めさせるために、縦軸の行動の選択の視点を活用したワークシートに、選択とその理由を記入させる。次に、他者の多様な意見に触れさせるために、板書に示す 2 軸 4 象限の座標軸の縦軸に選択肢、横軸に自分と他者等の立場の視点を設定し、児童の考え方や思いを教師が分類・整理し、児童に対比・検討させる。最後に、自分を深く見つめこれまでの自分を振り返らせるために、横軸の自分と他者等の視点を活用したワークシートにおいて、自分と他者の立場に立った思いに着目させる。その結果、自己の生き方についての考えの深まりの見取りとして用いたブルの発達段階における社会律及び自律の段階の児童の割合の平均は、検証授業前は 77.0% であったが、検証授業後は 93.0% となり、16.0 ポイント上昇した。このことから、自分を振り返らせる 2 軸 4 象限の座標軸の活用は、自己の生き方についての考えを深めることに有効であることが分かった。

キーワード：自己の生き方についての考えを深める 自分を振り返らせる 2 軸 4 象限の座標軸

I 主題設定の理由

小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編（平成 29 年，以下「29 年解説」とする。）では、児童が自己を見つめ、多面的・多角的に考える学習活動において、道徳的諸価値の理解と自己の生き方についての考えを相互に関連付けることによって、深い理解と深い考えとなっていくと示されている。また、児童は自己を見つめる学習活動を通して、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるように示されている。

横山利弘（2007）は、人間としての在り方を考えるとは、自分が、自己、他者、社会、人間の力を超えたものに対して、どのように関わるかを考え、自己の心の在りようを見つめることであると述べている。

所属校の全校児童を対象とした坂町版「道徳に関する意識調査」の中の「友だちの考えをよく聞いて自分の考えを深めています。」という質問項目における肯定的回答率は、82.7% であった。しかし、第 2 学年の道徳の授業における児童の振り返りを分析すると、自分事として捉えていない記述が全体の 3 割であり、様々な考えを基に自分を振り返り、自己の生き

方を深めているとはいえなかった。

そこで、自己の生き方についての考えを深めるために、黒上晴夫（2017）が、自己を見つめ、多面的・多角的に考える学習活動に適した思考ツールとして挙げている 2 軸 4 象限の座標軸を活用する。具体的には、2 軸 4 象限の座標軸をワークシートと板書において活用し、児童が自分事として考え様々な考えに触れ、これまでの自分を振り返ることを通して、これからの自分の思いや課題を培うことを目指す。

本研究は、自分を振り返らせる 2 軸 4 象限の座標軸の活用が、自己の生き方についての考えを深めさせることを明らかにすることを目的とする。

II 研究の基本的な考え方

1 自己の生き方についての考えを深めるとは

赤堀博行（2017）は、自己の生き方についての考えを深めるとは、児童自身がこれからの生き方についての思いや課題を培うことであると述べている。

貝塚茂樹（2009）は、道徳とは、人間が生きるための他者、集団、生命・崇高なもの（以下、他者等とす

る。)との間に成立する社会規範としての意味合いを強く含みもったものであると述べている。前述の横山(2007)も述べているように、他者等とのよりよい関わりについて考え、心の在りようを考えることが、生き方についての考えを深めることであると考ええる。

森岡卓也(1988)は、ブルの道德性の発達について、表1に示すように、アノミー、他律、社会律、自律の4段階を挙げ、児童の道德性の深まりを表すために最も適したものであると述べている。

表1 ブルの道德性の発達段階と児童の記述⁽¹⁾

道德の発達段階	判断基準	考え方のパターン	本研究における児童の記述例
第1段階 道德以前 (アノミー)	快・苦 損・得	●自分がしたいから、…する。 ●自分の得(損)になるから、…する。	●動物に触りたいから、触る。 ●面白いから、規則を守らない。
第2段階 他律	大人の 権威・強制 賞罰・報酬	●親(教師)に叱られるから、…する。 ●ばれなかったら、…してもいい。	●親がだめと言うから、しない。 ●先生に怒られるから、しない。
第3段階 社会律	友達の権威 学級集団や 仲間に左右	●みんながするから、…する。 ●あの子はいい人だから、…する。	●みんなに怒られるから、しない。 ●あの子はいい人だから、助ける。
第4段階 自律	自分自身の 内なる 理性原理	●誰に言われなくても、…する。 ●自分が他の誰にもしてほしいように全ての人に、…する。	●命は大切だから、助ける。 ●どの人も安心して過ごすために、規則を守る。

このブルの道德性の発達の段階は、他者との関わりに重点を置き、自分中心の考えから他者の立場を考えて判断する社会律の過程を含む。本研究では、他者等との関わりについて考え、自己の生き方についての考えを深めていくため、児童の選択の理由や考え方について、ブルの道德性の発達の段階を基に検証していくこととする。

これらのことから、自己の生き方についての考えを深めるとは、他者等とのよりよい関わりについて考え、心の在りようを考え、これからの自分の生き方についての思いや課題を培うことであると考ええる。なお、本研究では、考えの深まりについて、社会律及び自律の段階への移行を目指す。

2 自己の生き方についての考えを深めさせるために

(1) 自己の生き方についての考えを深めさせるためには

前述のように、「29年解説」において、児童が自らを振り返ることで、自己の生き方についての考えを深めることができ、そのために、実態に応じた指導

の工夫をする重要性が示されている。

赤堀(2017)は、生き方についての考えを深める指導の工夫として、道德的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止めることができるようにしたり、多面的・多角的に考えられるように他者の多様な考え方や感じ方に触れさせる工夫をしたりすることを通し、深く自分を見つめ振り返らせることを述べている。

西野真由美(2016)は、多面的・多角的に考えるとは、見方を変えたり、相手の立場に立って考えたりすることであると述べている。

指導の工夫について、道德教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議(平成28年7月)において、質の高い多様な指導方法の確立に向け、児童の状況に応じ指導を工夫し改善し、どの児童も授業に参加できる合理的配慮を行う必要性が示されている。

坂本哲彦(2014)は、全員が参加、活動できる道德の授業全体の工夫の一つとして「視覚化」を挙げ、情報のグラフ化の有効性について述べている。

黒上(2017)は、前述のように、視点を変え思考を深める思考ツールとして、2軸4象限の座標軸を挙げている。縦軸と横軸の視点を設定し、分類・整理することで対象相互の関係性が明らかになり、考えを共有することで自分の考えを深め広げることができると述べている。

これらのことから、これからの自分の生き方についての思いや課題を培い、自己の生き方についての考えを深めるために、三つの指導の工夫として、ア自分自身の問題として受け止めさせる工夫、イ他者の多様な考え方に触れさせる工夫、ウ深く自分を見つめこれまでの自分を振り返らせる工夫を取り入れた、自分を振り返らせる2軸4象限の座標軸を活用することとする。

(2) 2軸4象限の座標軸の活用と指導の工夫

児童は、2軸4象限の座標軸を活用したワークシートを用いて、自分の考えや思いを記入し、教師は児童の考えや思いを引き出しながら、板書上の2軸4象限の座標軸に整理する。

ア 自分自身の問題として受け止めさせる工夫

「29年解説」において、道德の授業では、発達の段階に応じ、答えが一つではない道德的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題として捉え、向き合う「考え、議論する道德」へと転換を図ることが示されている。

諸富祥彦(2015)は、考えるべき道德的問題について「するか、しないか」「AかBか」という二者択一

表2 本研究における道徳の授業の概要

		検証授業①	検証授業②	検証授業③
実施日 主題名 【内容項目】		平成29年6月22日 友だちと互いに助け合って 【B 友情・信頼】	平成29年6月29日 自然の生き物を大事に 【D 自然愛護】	平成29年7月12日 みんなが使う場所を大切に 【C 規則の尊重】
ねらい 教材名 【出典】		けんかをした友だちを助けようか 迷う主人公に対し、自他の立場から 考えることを通して、友だちのこと を考え行動するよさに気づき、友だ ちと互いに助け合い仲良く過ごすこ とを養う。 「モムンとヘーテ」 【「ゆたかなこころ2」光文書院】	世話をしてきた子つばめが死んで しまった出来事について、自他の立 場から考えることを通して、自然に 生きる生き物が自然の中で過ごすこ とのよさに気づき、自然に生きる生 き物に優しい心で接しようとする心 情を養う。 「おちた こつばめ」 【「みんなでかえらうとく2」日本標準】	主人公のおばけのドロちゃんが学 校のきまりを破り、友だちに迷惑を かけてしまったことについて、自他の立 場から考えることを通して、みんな で使う場所でのきまりのよさに気づき、 みんなが使う場所を大切にしようと する心情を養う。 「おばけ学校のきまり」 【「2年生の道徳」文溪堂】
導入	ア 自分自身 の問題と して受け止 める工夫	○友だちとけんかしたことはありま すか。 ○友だちと仲良く過ごすために、気 を付けていることや、大切にしてい ることはありますか。	○海や山、森などの自然の中で生き ている生き物では、どんなものが 思い浮かびますか。 ○自然の生き物に対し、気を付けて いることや大切にしていることは ありますか。	○たくさんの人が集まってみんな で使う場所には、どんな場所があり ますか。 ○たくさんの人が集まってみんな で使う場所を過ごす時に、困ったこ とはありましたか。
	イ 他者の多 様な考え 方に触れ させる工夫	○あなたがモムンだったら、大雨で 困っているヘーテを助けますか、 助けませんか。 A 助ける B 助けない	○あなたがたかしくんだったら、落 ちている子つばめを助けますか、 助けませんか。 A 助ける B 助けない	○あなたがドロちゃんだったら、困 っている時に、きまりを守りますか、 守りませんか。 A 守る B 守らない
展開	ウ 深く自分 を見つめ これまでの 自分を振 り返らせる 工夫	【ワークシート】選択肢の提示 選択の理由 行動の選択の視点 【縦軸】	【ワークシート】選択肢の提示 選択の理由 行動の選択の視点 【縦軸】	【ワークシート】選択肢の提示 選択の理由 行動の選択の視点 【縦軸】
	エ 他者の多 様な考え 方に触れ させる工夫	○助けてもらったヘーテは、どんな ことを思っているでしょう。 ○（座標軸を基に）友だちと接する 時、どんな気持ちが大切と思いま したか。分かったことはありますか。	○子つばめ、母つばめは、どんなこ とを思っているでしょう。 ○（座標軸を基に）自然の生き物と 接する時、大切だと思うことや分 かったことはありますか。	○運動場で遊んでいるみんなは、ど んなことを思っているでしょう。 ○（座標軸を基に）たくさんの人と過 ごす時、大切だと思うことや分か ったことはありますか。
終末	ウ 深く自分 を見つめ これまでの 自分を振 り返らせる 工夫	○これまで、モムンのように友だち のことを大事に思って行動できた ことがありますか。 ○これから、友だちと仲良く過 ごす時に、どんな気持ちを大切に していきたいですか。	○これまで、自然の生き物を大事に 思って行動できたことがあります か。 ○これから、自然の生き物と過 ごす時に、どんな気持ちを大切に していきたいですか。	○これまで、みんなが過ごす場所 で人やものを大事に思って行動 できたことがありますか。 ○これから、たくさんの人が集 まる場所で過ごす時に、どんな 気持ちを大切にしていきたいで すか。
	エ 他者の多 様な考え 方に触れ させる工夫	【ワークシート】自分と他者等の立場に立った思いに着目	【ワークシート】自分と他者等の立場に立った思いに着目	【ワークシート】自分と他者等の立場に立った思いに着目

の選択肢を提示することで、自分が何をすべきかを、理由と共に児童自身が考えることができると述べている。これらのことから、自分自身の問題として受け止めさせる工夫として、表2に示すように、選択肢の提示を行う。

本研究では、図1に示すように、座標軸の縦軸の視点を活用したワークシートに、提示した選択肢の選択と理由を記入させる。

イ 他者の多様な考え方に触れさせる工夫

赤堀（2013）は、友だちの多様な感じ方や考え方

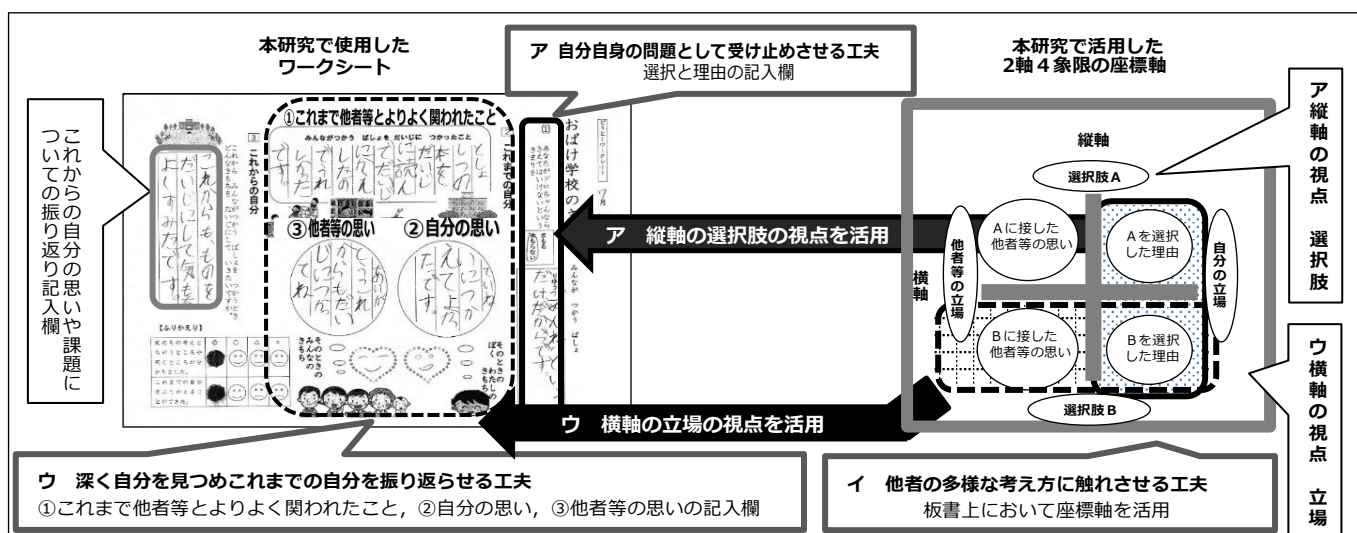


図1 本研究で使用したワークシートと2軸4象限の座標軸との関連

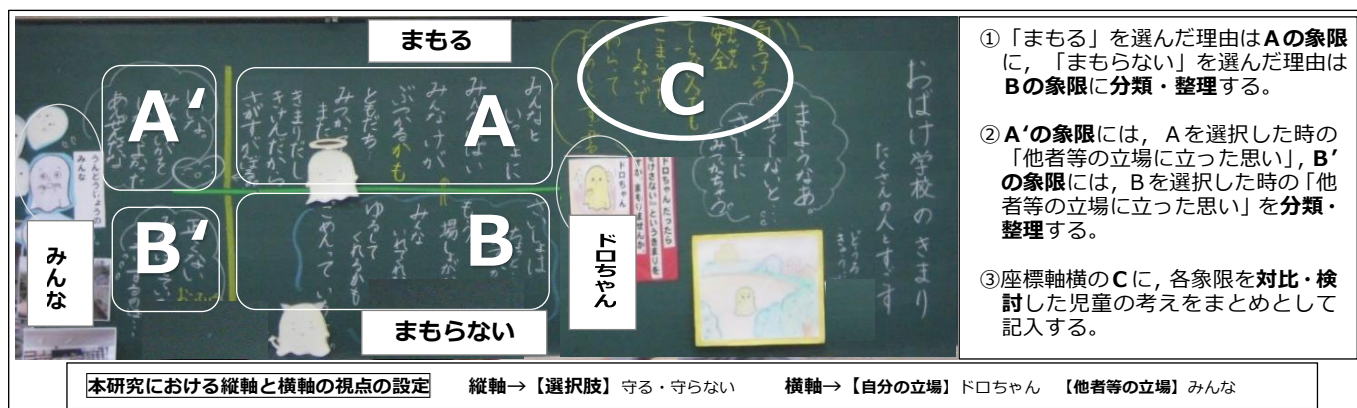


図2 板書上における2軸4象限の座標軸の活用の具体とその手順

に触れることで、自分の感じ方や考え方がより明確になるとし、比較できるように、児童の発言などを適切に分類・整理して分かりやすく児童に示す工夫が求められることを述べている。

西野(2016)は、相手の立場に立って視点を変えて考えることで、他人の思いや痛みに共感し、想像できるようになるとし、自分の利害だけで物事を見る自分中心の見方を超える力が育てたい道德性であると述べている。これは、自分と他者等の関わりについて考え、心の在りようを考える本研究においては、大切にしたい考え方である。低学年の段階では、役割演技を取り入れ、実感を伴って理解できるようにする。

坂本(2014)は、視覚化によって板書に意見を分類した後、児童一人一人が違いやよさに着目して対比・検討し考えを深め、道德的価値観を高めることが必要であると述べている。

これらのことから、他者の多様な考え方に触れさせる工夫とは、2軸4象限の座標軸を板書で活用し、児童の考え方や思いを教師が分類・整理し、違いやよさに着目して児童に対比・検討させ、他者等とのよりよい関わりを考えさせることであると考え。児童が、板書上の2軸4象限の座標軸上の様々な考え方や思いに触れ、対比・検討し、他者等とのよりよい関わりについて考えれば、他者の考え方に触れたこととする。本研究での板書上における2軸4象限の座標軸の活用の具体とその手順を図2に示す。

ウ 深く自分を見つめこれまでの自分を振り返らせる工夫

坂本(2014)は、これまでの自分を見つめるとは学んだ学習内容に照らして、これまでの自分の行動や考え方がどうであったかを検討することであり、できている自分に着目させることと述べている。

「29年解説」において、児童の道德性に係る成長

の様子をどのように見取るかについて、現在の自分を見直していることがうかがえる部分や、判断の根拠やその時の心情を様々な視点から捉えようとしていることに着目することが示されている。

これらのことから、深く自分を見つめ自分を振り返らせる工夫とは、学んだ学習内容に照らして、横軸の視点を活用し、自分と他者等の立場に立った思いに着目させ、これまでよりよく関わったこととその時の互いの心の在りようを想起させることが有効であると考え。

本研究では、ワークシートの横軸の視点を活用して、自分と他者等の立場に立った思いに着目させる。終末において、振り返り欄には、これからの自分の思いや課題を記述させる。

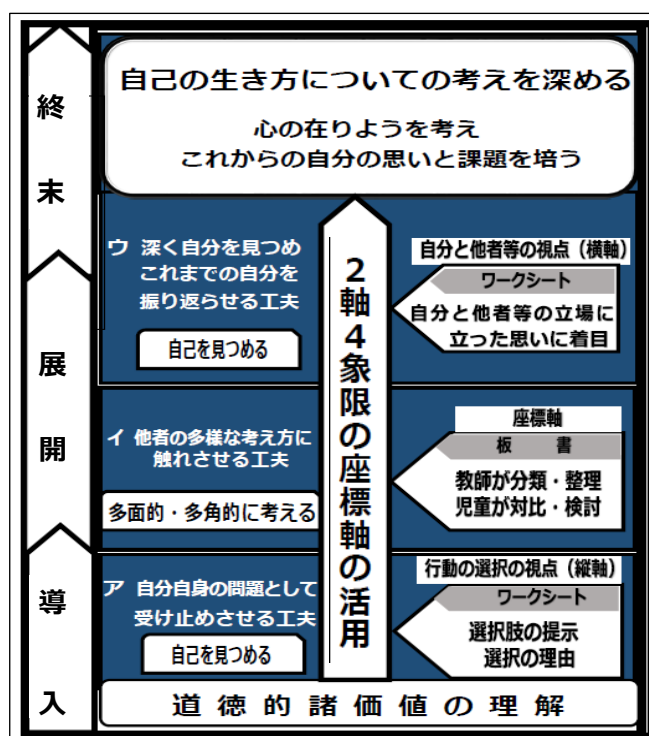


図3 本研究の授業構想図

以上のように、三つの指導の工夫を取り入れた自分を振り返らせる2軸4象限の座標軸を活用すれば、前頁図3の授業構想図に示すように、児童はこれからの自分の思いや課題を培い、自己の生き方についての考えを深めることができると考える。

Ⅲ 研究の仮説及び検証の視点と方法

1 研究の仮説

自己を見つめ、多面的・多角的に考える学習活動を取り入れた道徳の授業において、自分を振り返らせる2軸4象限の座標軸を活用すれば、児童はこれからの自己の生き方についての考えを深めることができるであろう。

2 検証の視点と方法

検証の視点と方法について、表3に示す。

表3 検証の視点と方法

①児童は、自分自身の問題として受け止めることができたか。	事前・事後アンケート ワークシートの記述
②児童は、他者の多様な考え方に触れることができたか。	事前・事後アンケート
③児童は、深く自分を見つめ、これまでの自分を振り返ることができたか。	事前・事後アンケート ワークシートの記述の分析
④児童は、自己の生き方についての考えを深めることができたか。	事前・事後アンケート ワークシートの記述の分析

Ⅳ 検証授業について

1 検証授業の内容

- 期 間 平成29年6月21日～平成29年7月12日
- 対 象 所属校第2学年（1組34人 2組34人）

2 検証授業の概要

検証授業の概要を3頁表2に示す。

Ⅴ 検証授業の分析と考察

自分を振り返らせる2軸4象限の座標軸を活用したことで、児童は自己の生き方についての考えを深めることができたかを分析・考察する。

1 自分自身の問題として受け止めることができたか

本研究では、異なる内容項目を取り上げ、指導の改善を図りながら三つの検証授業を行った。ここでは、第2学年2組33人（1人欠席）を対象として行っ

た最後の検証授業③の実際を取り上げる。展開前半において、紙芝居を用いて教材を提示後、自分がドロちゃんだったら、きまりを守るか、守らないかという選択肢を提示しワークシートに記入させた。その児童の記述の一部を抜粋したものを次に示す。

- ・「守らない」自分がごめんって言ったらいい。
- ・「守る」先生に怒られるから。
- ・「守る」1番に見つかったら、私は恥ずかしいけど、お友だちがけがをするから。＊下線部は稿者による。

選択と理由についての記述の一部

このように、選択肢を選び理由を書くことができた児童は33人中33人であった。

「道徳の授業では、自分だったらどうするのかについて考えています。」という項目の事前・事後アンケート結果の比較を図4に示す。欠席者の人数を除き、回答のあった児童数を64人として検証した。

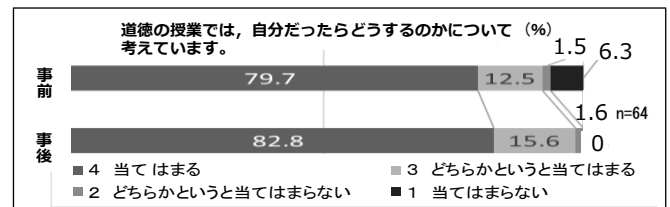


図4 検証の視点① 事前・事後アンケート結果比較

肯定的に答えた児童は、事前アンケートでは92.2%、事後アンケートでは98.4%と、6.2ポイント上昇した。これは、座標軸の縦軸の視点を活用し、ワークシートにおいて理由と共に記入させたことが有効であったと考える。

これらのことから、児童は自分自身の問題として受け止めることができたと考える。

2 他者の多様な考え方に触れることができたか

児童の判断の理由を、板書上の2軸4象限の座標軸上に分類・整理後、自分と他者等の立場に立った思いを考えさせる。実感を伴って理解できるように、役割演技を取り入れた。児童に主人公のドロちゃん役（1人）・それを見守るおばけ役（3人）を担わせ、教師は、ドロちゃんをそそのかす心の中の悪魔役となった。役割演技後、児童全体に他者等の立場に立った思いを問いかけた。その発言を、板書上の座標軸の横にまとめ、完成した座標軸を基に対比・検討させた。役割演技の記録と、他者等の立場に立った思いについての発言、完成した座標軸を基に対比・

検討させた後の考えを次に示す。

T	ドロちゃん、いいよ、みんな見ていないから消えちゃおう。
C1	だめ。
T	どうして？楽しいよ。見つからないよ。
C1	だって、みんながけがをしてしまうから。
T	今のドロちゃんを見ていて、どうだった？
C2	ほっとした。
C3	よかったって、思った。
C4	悩むドロちゃんを見て、「だめだめ。」と思った。 *下線部は稿者による。

役割演技の記録の一部

ドロちゃんが規則を守った時の他者等の思い
・いいなあ。 ・みんなけがをしなくてよかった。
・安全だよ。
ドロちゃんが規則を守らなかった時の他者等の思い
・正しくない。 ・みんな、していないのに。
・こっそりするのは、どうかな。

他者等の立場に立った思いについての児童の発言の一部

・みんなを困らせたりしないで、笑って過ごすことが大事だと思います。
・知らない人も、安全に過ごせるように、きまりを守ることが大事だと思いました。
・最初は恥ずかしいから、守らなくてもいいかなって思ったけど、いろんな人の話を聞いたり、今日のお勉強をして、気を付けて過ごしたりしたことが大事なんだな、これからは、きまりを守っていききたいなと思いました。 *下線部は稿者による。

座標軸を基に対比・検討させた後の児童の発言の一部

板書上の座標軸を基に、対比・検討させたことで、他者等を意識して考え、他者等との関わりについての考えを深めていることが、発言から推察できる。

「道徳の授業では、いろいろな考えの違うところや似ているところを比べて考えています。」の項目の事前・事後アンケートの結果比較を図5に示す。

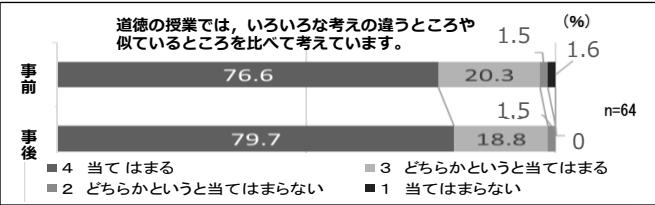


図5 検証の視点② 事前・事後アンケート結果比較

事前アンケートにおいて、肯定的な回答の中で、「当てはまる」と答えた児童は、事前アンケートでは76.6%、事後アンケートでは79.7%と、3.1ポイント上昇した。

さらに、三つの検証授業を行った後、第2学年の全児童を対象（2人欠席のため66人）に、2軸4象限の座標軸を活用した板書についての感想を聞き取った。すると、66人中66人が、本研究で用いた2軸4象

限の座標軸を活用した板書が分かりやすかったと答えた。その理由を尋ねると、次のとおりであった。

・黒板を見ながら、自分だったら助けるかな、助けないかなって、理由をいっぱい考えました。【対比・検討】
・ハートが並んでいるのを見て、このハートは（気持ちが）同じだとか、このハートは違うなとよく考えました。【対比】
・並んでいる考えを比べてみました。【対比】
・もっと色がついていても、いいな。【比べやすさ】
*下線部と【 】は稿者による。

座標軸を活用した板書についての児童の感想の一部

この感想から、座標軸を活用し考えや思いを視覚化したことが、児童に自分と他者等の関わりにおける心の在りようや選択についての対比・検討を促したと考えられる。

これらのことから、他者の多様な考え方に触れさせるための指導の工夫として、板書上の2軸4象限の座標軸を活用して、児童の考え方や思いを教師が分類・整理し、児童に対比・検討させたことは有効であったと考える。

以上のことから、児童は、他者の多様な考え方に触れることができたと考える。

3 深く自分を見つめ、これまでの自分を振り返ることができたか

横軸の立場の視点を活用したワークシートにおいて、これまでの自分を振り返らせ、①これまで他者等とよりよく関われたこと、②自分の思い、③他者等の思いの3点を記入させた。児童の記述の一部を表4に示す。

表4 検証授業③ これまでの自分を振り返った児童の記述の一部

①学校の廊下を走らないことを守りました。
②自分の思い 「学校では、色々なきまりを全部頑張ります。」
③他者等の思い「みんな、きまりを守ってほしいです。」
①公園の滑り台の梯子を、ゆっくり上りました。
②自分の思い 「うれしかったよ。」
③他者等の思い「うれしいよ。」
①教室で気を付けている。
②自分の思い 「教室を大事にしたら気持ちがいいなあ。」
③他者等の思い「気持ちいいなあ。」

これらの記述より、児童がこれまでの自分の行為によって、他者等が自分に対し感謝や心地よさを抱いていることを想像して振り返っていたことが分かった。他者等との関わりについてのよさを実感できる点が、この振り返りの特長であると考えられる。

「道徳の授業では、学んだことについてこれまで

の自分の経験を振り返っています。」の項目において、事前・事後アンケートの結果比較を図6に示す。

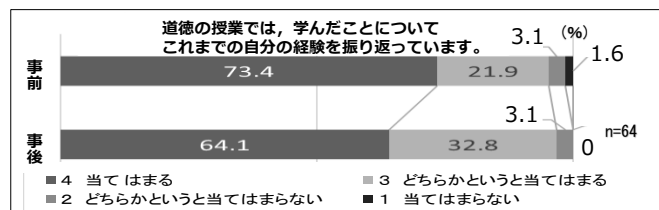


図6 検証の視点③ 事前・事後アンケート結果比較

肯定的に回答した児童は、事前アンケートでは95.3%、事後アンケートでは96.9%と、1.6ポイント上昇したが、肯定的な回答の中で「当てはまる」と答えた児童は73.4%から64.1%に減少した。

減少した要因としては、自分と他者等の思いを想像することと、行為と思いを分けてワークシートに記入する活動に難しさがあったことが考えられる。また、今回扱った教材に関連した他者等との関わりに関する生活経験が少ない場合は、振り返りの記入が困難であったと推察する。

これらのことから、深く自分を見つめ、これまでの自分を振り返らせる指導の工夫として、自分と他者等の立場の思いに着目させて振り返らせるワークシートを活用したが、深く自分を見つめこれまでの自分を振り返ることは十分ではなかったと考える。

4 自己の生き方についての考えを深めることができたか

終末において、これからの自分についてワークシートの振り返り欄に記入させた。児童のこれからの自分についての記述の一部を、次に示す。

検証授業③【C 規則の尊重】教材名「おばけ学校のきまり」
 ・悪い人になるより、自分で助けるなど、喧嘩しないで、優しく
した方がいい気持ちを大事にする。
 ・わたしが、一番気を付けているのは、順番を守っているので、
 これからも続けたいです。
 ・わたしはどんな場所でもそのきまりを守っていきます。
 ・みなさんの気持ちを考えて大事にしていきたいです。
 ・一緒に遊ぶ、安全に遊ぶ。
 ・ぼくは、一人だけずるをやらずに、鬼ごっこやかくれんぼを
 したいです。
 ・みんなを大切に、みんなを助けたいです。
 ・今のように走らないようにしたいです。
 ・これからも、優しく譲ったりしてあげたいです。
 *下線部は稿者による。

これからの自分についての記述の一部

これらの記述から、これまで自分がよりよく関われたことの価値付けができ、自信をもってこれからも続けていきたいとする思いをもった児童が多かった。

また、実際に自分が判断に迷う場面を振り返った児童は、これからは迷わず判断しようという、新たな思いをもつことができていた。

「道徳の授業では、これからの自分について考え、なりたい自分や大切にしていきたいことを考えています。」の項目において、事前・事後アンケートの結果比較を図7に示す。

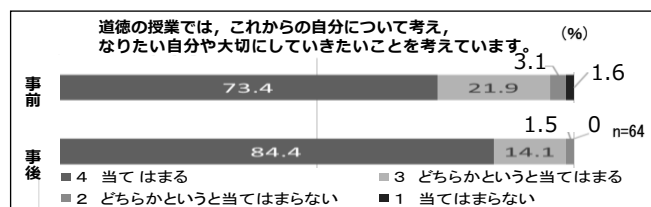


図7 検証の視点④ 事前・事後アンケート結果比較

肯定的な回答の中で、「当てはまる」と答えた児童は、事前アンケートでは73.4%、事後アンケートでは84.4%で、11.0ポイント上昇した。

これは、2軸4象限の座標軸を活用して、縦軸の視点において、選択の違いによる考え方や感じ方を対比・検討し、横軸の視点において、自分と他者等の立場に立った思いに着目して振り返る学習を通し、自分を振り返ることができ、自分の行動や選択が、他者等に影響を与えていることが理解できたからであると考える。振り返りの記述より、他者等とよりよい関わりができたと思えた児童は、これからもそのよさを伸ばしていこうとする思いをもち、よりよい関わりができていなかったと振り返った児童は、これから自分にできることについて考えることができていた。

これらのことから、自分を振り返らせる2軸4象限の座標軸を活用したことは、自分と他者等の互いの心の在りようを考え、これからの自分の思いや課題を培うことに有効であったと考える。

以上のことより、自分を振り返らせる2軸4象限の座標軸を活用した道徳の授業を通して、児童は自己の生き方についての考えを深めることができたと考えられる。

さらに、自己の生き方についての考えをいかに深めたかについて、全ての検証授業の記録を基に分析を行った。各検証授業において、展開前半における選択肢の理由と、終末におけるこれからの自分についてのワークシートの記述を、ブルの道徳性の発達の段階を用いて分類した。各検証授業から児童1人を抽出し、自己の生き方についての深まりを見取った。児童の記述の一部を次頁表5に示す。

表5 各検証授業における抽出児童の記述の一部

検証授業	記述場面	
	展開前半	終末
① 【B 友情・信頼】	助ける。 友だちだから。 (正しいと決め られていること に従う。) 【他律】	みんなと喧嘩しない気持ち。 (自分も)泣かされず に、相手も泣かない気持ちを 大事にする。 【社会律】
② 【D 自然愛護】	助けない。 母鳥がいやな気 持ちになるかも しれないし、子 つばめも死んで しまうかも。 【社会律】	私はこれから、(全ての) 自然を守って、すぐに逃 がしてあげます。 【自律】
③ 【C 規則の尊重】	守らない。 (権威ある誰か に)ばれても怒 られないから。 【他律】	みんなを大切にしたりし て、みんなを助けたいな と思いました。ぼくは、き まりは守らなくてもよい と思っていたけれど今日 のドロちゃんのお勉強を して、きまりって大事な んだなと思いました。こ れからはきまりを守って いきたいです。【社会律】

このように、第2学年2組34人の各検証授業の記述を分類し、展開前半と終末の比較を図8に示すように、グラフに表した。なお、検証授業①③は、欠席のため1人減の33人で検証した。

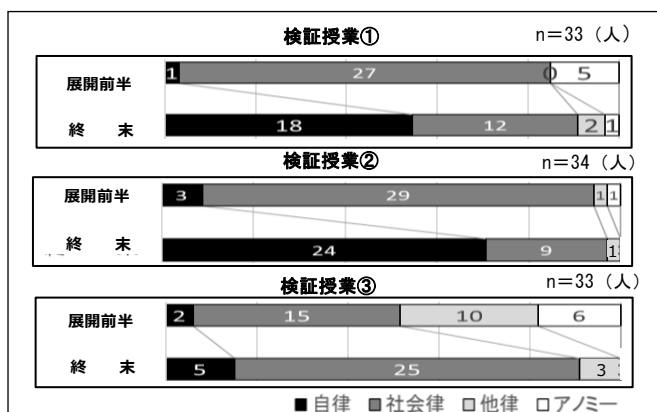


図8 各検証授業における児童の道徳性の発達の分類

分類の結果、検証授業①では、アノミー及び他律の段階は2人減、社会律及び自律の段階の児童は2人増、検証授業②では、アノミー及び他律の段階は1人減、社会律及び自律の段階の児童は1人増、検証授業③では、アノミー及び他律の段階は13人減、社会律及び自律の段階の児童は、13人増であった。

このように、各検証授業において、社会律及び自律の段階の児童が増加したことが明らかとなった。なお、森岡（1988）は、動植物愛護に関わる学習では、本来は他律の段階の児童も、社会律の段階以上の感情を自然と抱くとされ、例外的に考えることを

述べており、検証授業②の自律の段階の割合が多いのはそのためであるとも考える。

これらのことから、児童が、自分を振り返らせる2軸4象限の座標軸を基に、自分の選択や、自分と他者等の立場に立った思いについて様々な視点から考え、自分を振り返ったことで、自己の生き方についての考えを深めたと考えられる。

以上のことから、自己の生き方についての考えは、社会律及び自律の段階へと深まったと考える。

VI 研究のまとめ

1 研究の成果

自己を見つめ、多面的・多角的に考える学習活動を取り入れた道徳の授業において、自分を振り返らせる2軸4象限の座標軸を活用すれば、これからの自分について思いや課題を培い、自己の生き方についての考えを深めることができることが分かった。

2 研究の課題

- 児童がこれまでの自分について、より自分と他者等の思いに着目して振り返ることができるよう、板書上の座標軸とつながりをもたせたり、記入するステップを減らしたりする等のワークシートの改善を図る。
- 2軸4象限の座標軸の縦軸と横軸の視点は、学年やねらいに応じて設定する等、発達の段階を考慮した活用方法を模索していきたい。

【注】

- (1) 森岡卓也（1988）：『子どもの道徳性と資料研究』明治図書出版p. 39のブルの道徳性の発達の段階の道徳指導における具体的な活用を参考にして、稿者が作成した。

【参考文献】

- 横山利弘（2007）：『道徳教育、画餅からの脱却―道徳をどう説く―』廣済堂あかつき株式会社
 田村学・黒上晴夫（2017）：『田村学・黒上晴夫の「深い学び」で生かす思考ツール』小学館
 赤堀博行（2017）：『道徳科における対話的な学びの基本的な考え方』梶田勲一責任編集『対話的な学び アクティブ・ラーニングの1つのキーポイント』金子書房
 貝塚茂樹（2009）：『道徳教育の教科書』学術出版会
 森岡卓也（1988）：『子どもの道徳性と資料研究』明治図書出版
 松本美奈・貝塚茂樹・西野真由美・合田哲雄（2016）：『特別の教科道徳Q&A』ミネルヴァ書房
 坂本哲彦（2014）：『道徳授業のユニバーサルデザイン―全員が楽しく「考える・わかる」道徳授業づくり―』東洋館出版社
 諸富祥彦（2015）：『「問題解決学習」と心理学的「体験学習」による新しい道徳授業』図書文化社
 赤堀博行（2013）：『道徳授業で大切なこと』東洋館出版社